

## ミュージアムとの連携

平成27年4月には、ミュージアムは県の企画部から学術分野を所管する文化・観光部に移りました。また、開設準備にあたる職員は、新たに設置されたミュージアム学芸課の所属となりました。そして、地質・岩石・地震分野の1名を除いて5名の研究職と事務職5名と安田館長が、ミュージアムで平成28年3月開館のために仕事を始めました。

自然博ネットは、このミュージアムの活動の協力者として、ミュージアムの中に事務所を移し、主に標本登録保管事業と資料活用事業を受託して作業を進めています。

ミュージアムの運営方針や活動、展示教育内容などについては、ミュージアムの研究者や事務職員が策定し、実施するものです。しかし、ミュージアムの研究者も事務職員も、来年3月のミュージアム開館のための作業に追われて、まだミュージアムの具体的な形や運営体制が形成されていません。このミュージアムは、静岡県で初めての博物館であるということと、校舎の再利用という点や「環境史」というテーマであること、研究職を配置していること、自然博ネットが連携していることなどいろいろな面で新しいタイプの博物館です。そのため、県庁の内でも新たに整備しなければ問題もあり、また来年3月に

迫った開館に向けて博物館をどのように運営していくかという問題もあると思います。

その作業は、展示と同様にまだ始まったばかりで、とても大変な作業だと思います。しかし、それは私たち自然博ネットが行えることではなく、主体はあくまでミュージアムのスタッフです。そして、私たちはそれに対して委託業務を通じて、自然史資料に関してできるところは協力する立場にあると考えています。

ようやく実現した県立の自然史系博物館。私たちが20年以上にわたって県に対して要求し、待ち望んでいて、その標本資料の収蔵や活用に協力してきた博物館が今誕生します。

これからは、この博物館をどのように育てていくか、いろいろな問題もあるでしょうが、県のミュージアムのスタッフといっしょに、いろいろと考え協議して、発展させていきたいと思っています。

自然博ネットでは、これまで「静岡県に県立自然史博物館を！」というスローガンで活動を行ってきましたが、すでに一応自然系博物館が開館することになり、専門研究職のスタッフも仕事を始められていることから、これからは「魅力的な自然史博物館活動を目指して！」というスローガンで活動を展開していきたいと考えています。ぜひ、みなさんの活動へのご支援とご協力をお願いいたします。

## NPO 自然史博物館ネットワークの歴史

年	月	出来事	静岡県の動向
平成6年 (1994年)	12	静大名誉教授 伊藤二郎氏 静岡新聞「座標」に県立自然史博物館の必要性を投稿	12月 県新世紀創造計画に自然系博物館が位置づけられる
平成7年 (1995年)	2 3 4 5 7 12	伊藤氏宅に、4人が集まり設立運動開始を検討 第1回 発起人会8名で発足 第1回 協力委員会総会開催 会長伊藤二郎氏就任 「要望書」「要望書の解説」石川県知事宛 「静岡県立自然史博物館に関する提案書」 第2回協力委員会総会開催	
平成8年 (1996年)	1 4 5	発起人会名称を静岡県立自然史博物館設立推進協議会(自然博推進協)に変更 「静岡県立自然史博物館の整備について要望書」 自然博推進協第1回総会	8年度予算 自然系博物館構想検討費 1,000万円 ○ 県内の標本資料の所在調査 ○ 有識者との構想意見交換会開催
平成9年 (1997年)	1 3	「静岡県立自然史博物館基本構想の早期策定についての提案書」 自然博推進協 第2回総会	9年度予算 自然系博物館整備基本構想検討事業費 1,000万円 3月 自然系博物館構想検討に係る資料・文献等調査報告書 ○ 県内の標本等資料評価
平成10年 (1998年)	3	自然博推進協 第3回総会	10年度予算 自然系博物館基本構想検討事業費 300万 3月 自然系博物館資料情報収集等業務報告書 ○ 県内の標本等資料評価
平成11年 (1999年)	3	自然博推進協 第4回総会 「自然史博物館設置についての提案書(第3次案)」	11年度予算 自然系博物館基本構想検討事業費 300万
平成12年 (2000年)	3	自然博推進協 第5回総会 ミニ博物館「静岡の自然」開催	12年度予算 自然系博物館基本構想検討事業費 0査定 ○ 県内の標本等資料評価

年	月	出来事	静岡県の動向
平成13年 (2001年)	4 11 12	自然博推進協 第6回総会 故寺田徹氏「駿河湾の貝」展 開催 しずおか自然図鑑発行	6月 静岡県自然学習・研究機能調査委員会発足 12月 自然系博物館に関する県民アンケート調査報告書 魅力ある“しずおか”2010年戦略プランに 「自然系博物館についての検討する」と記載
平成14年 (2002年)	4 7	自然博推進協 第7回総会 自然博推進協臨時総会および 静岡県自然史博物館ネットワーク設立総会	4月 静岡県自然学習・研究機能調査委員会継続 10月 学校教育と博物館に関するアンケート調査報告書 10月 静岡県における自然学習・研究機能のあり方報告書
平成15年 (2003年)	1 4 9	NPO静岡県自然史博物館ネットワークとして認証 自然博ネット 第2回総会 自然学習資料保存事業を受託	15年度予算 自然学習資料保存事業 10月 自然学習資料保存事業の開始
平成16年 (2004年)	4 6 6	自然博ネット 第3回総会 浜名湖花博出展標本保存事業 三島三二博「静岡県の自然」開催	16年度予算 自然学習資料保存事業 (国の緊急地域雇用創出特別基金事業)
平成17年 (2005年)	4 6 8	自然博ネット 第4回総会 「静岡県立自然史博物館設立に関する要望書」 清水三二博「静岡県の自然」開催	17年度予算 自然学習資料保存事業 900万円 標本資料保存事業場所が三島から清水に移転
平成18年 (2006年)	4 8 12	自然博ネット 第5回総会 清水三二博「静岡県の自然」開催 第3次ナウマンゾウ発掘調査	18年度予算 自然学習資料保存事業 4月 魅力ある“しずおか”2010年戦略プラン後期5年計画に 「自然系博物館についての検討する」と記載
平成19年 (2007年)	4 9	自然博ネット 第6回総会 「しずおか自然史」静岡新聞に連載開始	19年度予算 自然学習資料保存事業 県企画部、地域政策室との検討会開始
平成20年 (2008年)	1 4	第1回収蔵コレクション展 開催 故稲葉 茂氏昆虫コレクション 蝶を愛して日本から世界へ 自然博ネット 第7回総会	20年度予算 自然学習資料保存事業 事業室名を静岡県自然学習資料センターに改名 資料センター標本室を拡張 今までの倍くらいの面積になる。
平成21年 (2009年)	4 8	自然博ネット 第8回総会 大学との連携 静岡大学、東海大学などに講師派遣、学 芸員受け入れなど、県と協定を結び開始 第2回収蔵コレクション展 静岡の化石・鉱物展 開催 石にかけた青春の思い! 故大橋昭彦氏コレクション	21年度予算 自然学習資料保存事業 川勝新知事に、県議会で大塚善弘議員が自然史博物館について の知事の見解を質問 県企画部、地域政策室長らと、当会理事の懇談会開催 12月 静岡県ホームページに自然学習資料センターの紹介ページ 「静岡県の自然を学ぼう」ができる。
平成22年 (2010年)	4 8 10 11 12	自然博ネット 第9回総会 三二博物館「富士山の自然展」開催 しずおか自然史 発行 池谷理事長逝去 伊藤二郎前自然博推進協代表逝去	2月 県議会で天野 一県議が質問。知事は必要との見解を 示し、第二段階への移行を示す。 22年度予算 自然学習資料保存事業 7月 緊急雇用事業 自然史資料活用事業開始
平成23年 (2011年)	4 5 8	自然博ネット 第10回総会 新理事長に天岸祥光氏が就任 東海自然誌 第4号発刊 第4回収蔵コレクション展「世界のアゲハチョウ」開催 自然史学会連合講演会 標高差7000mの自然史 ー富士山から駿河湾までー	2月 県議会で民主党の代表質問において、自然史資料の活用 拠点の整備として、閉校する県立静岡南高校を候補地としてあ げ、自然学習センターを移転し、拡張する旨、知事が答弁する。 3月 川勝県知事 自然学習資料センター視察 23年度予算 自然学習資料保存事業 7月 緊急雇用事業 自然史資料活用事業開始
平成24年 (2012年)	4 5 8	自然博ネット 第11回総会 東海自然誌 第5号発刊 特別展「日本の蝶と自然」開催	2月 県議会で公明党による代表質問において、県立静岡南高校 を利用し、平成26年度に資料センターとして開館する旨答弁。 24年度予算 自然学習資料保存事業 24年度予算 拠点施設整備の改修設計費 7月 緊急雇用事業 自然史資料活用事業開始 静岡県自然学習センター整備委員会の発足
平成25年 (2013年)	4 5 8 11	自然博ネット 第12回総会 東海自然誌 第6号発刊 特別展「里山の自然ー日本の原風景」開催 杉山恵一理事 逝去	3月 静岡県自然学習資料センター整備方針 策定 25年度予算 自然学習資料保存事業 4月 県企画広報部政策企画局企画課内に自然学習センター整備 班が設置され4名が整備にあたる。 6月 ふじのくに自然系博物館基本構想検討委員会の設置 6回の 委員会が開かれる。
平成26年 (2014年)	4 5 8	自然博ネット 第13回総会 東海自然誌 第7号発刊 NPO事務所をふじのくに地球環境史ミュージアム内に設置	4月 ふじのくに自然系博物館基本構想検討委員会より県知事あて 答申。館の名称がふじのくに地球環境史ミュージアムとなる。 ふじのくに地球環境史ミュージアム整備課6名配置される。 26年度予算 自然学習資料保存事業・自然史資料活用事業 ふじのくに地球環境史ミュージアム整備課に2名の研究員が採用 自然学習センターが整備課清水分室から整備課大谷室に移転
平成26年 (2014年)	4 5 9	自然博ネット 第14回総会 東海自然誌 第8号発刊 自然史しずおか50号特別記念号発行	4月 ふじのくに地球環境史ミュージアムに3名の研究員が採用